

職場環境要件

区 分	内 容	当法人としての取組み
入職促進に向けた取組	■ 法人や事業所の経営理念やケア方針・人材育成方針、その実現のための施術・仕組みなどの明確化	・ 新任者研修を通し経営理念や指針の浸透を図っている ・ 資格、経験、年齢にこだわらない採用、短時間勤務、少日数勤務者など幅広く採用 ・ 実習生の受入れ（高校生）や地域行事の参加（秋祭り）、当法人主催の行事（夏祭り）に招待などを実施
	□ 事業者の共同による採用・人事ローテーション・研修のための制度構築	
	■ 他産業からの転職者・主婦層、中高年齢者等、経験者・有資格者等にこだわらない幅広い採用の仕組みの構築	
	■ 職業体験の受け入れや地域行事への参加や主催等による職業魅力度向上の取組の実施	
資質の向上やキャリアアップに向けた支援	■ 働きながら介護福祉士取得を目指す者に対する実務者研修受講支援や、より専門性の高い介護技術を取得しようとする者に対するユニットリーダー研修、ファーストステップ研修、喀痰吸引、認知症ケア、サービス提供責任者研修、中堅職員に対するマネジメント研修の受講支援等	・ 介護福祉士等の資格を取得して、業務上その資格を活かす職員に対して資格に応じた「資格手当」を支給。介護福祉士等の資格取得を希望する職員に対して「研修。資格取得費用の助成制度」により資格取得に係る費用について助成を行う。また研修受講、受験等のための勤務シフト調整等に配慮 ・ 年に一度、施設長によるキャリア面談等を実施
	□ 研修の受講やキャリア段位制度と人事考課との連動	
	□ エルダー・メンター（仕事やメンタル面のサポート等をする担当者）制度導入	
	■ 上位者。担当者等によるキャリア面談など、キャリアアップ・働き方等に関する定期的な相談の機会の確保	
両立支援・多様な働き方の推進	■ 子育てや家族等の介護等と仕事の両立を目指す者のための休業制度等の充実、事業所内託児施設の整備	・ 育児、介護休業規程あり ・ 非正規職員から正規職員への転換を実施、また雇用契約に拠らず職員の一時的事情により短時間勤務、勤務時間の変更希望があった場合、状況に応じて柔軟に配慮 ・ 年次有給休暇取得を積極的に行っている
	■ 職員の事情等の状況に応じた勤務シフトや短時間正規職員制度の導入、職員の希望に即した非正規職員から正規職員への転換の制度等の整備	
	■ 有給休暇を取得しやすい雰囲気・意識作りのため、具体的な取得目標を定めた上で、取得状況を定期的に確認し、身近な上司等からの積極的な声かけを行っている	
	□ 有給休暇の取得促進のため、情報共有や複数担当制度等により、業務の属人化の解消、業務配分の偏りの解消を行っている	
腰痛を含む心身の健康管理	□ 業務や福利厚生制度、メンタルヘルス等の職員相談窓口の設置等相談体制の充実	・ 特殊浴槽、スライディングシートの使用により腰痛対策を行っている ・ マニュアルの作成、委員会による事例分析等で共有化を図っている
	□ 短時間勤務労働者等も受診可能な健康診断・ストレスチェックや、従業員のための休憩室の設置等健康管理対策の実施	
	■ 介護職員の身体の負担軽減のための介護技術の修得支援、職員に対する腰痛対策の研修、管理者に対する雇用管理改善の研修等の実施	
	■ 事故・トラブルへの対応マニュアル等の作成等の体制の整備	
生産性向上のための業務改善の取組	□ 厚生労働省が示している「生産性向上ガイドライン」に基づき、業務改善活動の体制構築（委員会やプロジェクトチームの立ち上げ、外部の研修会の活用等）を行っている	・ 日課表に基づいて業務を行う ・ シフトごと・タブレットの導入により申し送り事項やケア内容の共有、人感センサーを利用している ・ 介護職種のみではなく、経理や営繕、厨房などの部署を設けており、それぞれの業務分担が明確化されている ・ 委員会を中心に５Ｓ活動を実施
	■ 現場の課題の見える化（課題の抽出、課題の構造化、業務時間調査の実施等）を実施している	
	■ ５Ｓ活動（業務管理の手法の１つ。整理・整頓・清掃・清潔・躰の頭文字をとったもの）等の実践による職場環境の整備を行っている	
	□ 業務手順書の作成や、記録・報告様式の工夫等による情報共有や作業負担の軽減を行っている	
	■ 介護ソフト（記録、情報共有、請求業務転記不要なもの）情報端末（タブレット端末、スマートフォン端末等）の導入	
	□ 介護ロボット（見守り支援、移乗支援、移動支援、排泄支援、入浴支援、介護業務支援等）又はインカム等の職員間の連絡調整の迅速化に資するICT機器（ビジネスチャットツール含む）の導入	
	□ 業務内容の明確化と役割分担を行い、介護職員がケアに集中できる環境を整備。特に、間接業務（食事等の片付け、清掃、ベッドメイク、ゴミ捨て等）がある場合は、いわゆる介護助手等の活用や外注等で担うなど、役割の見直しやシフトの組み換え等を行う	
	□ 各種委員会の共同設置。各種指針・計画の共同策定、物品の共同購入等の事務処理部門の集約、共同で行うICTインフラの整備、人事管理システムや福利厚生システム等の共通化等、協働化を通じた職場環境の改善に向けた取組の実施	
やりがい・働きがいの醸成	■ ミーティング等による職場内コミュニケーションの円滑化による個々の介護職員の気づきを踏まえた勤務環境やケア内容の改善	・ 申し送りにて情報共有、ユニットカンファレンスの実施にて改善を図っている ・ 施設で開催している夏祭りやイベントに地域住民を招待し交流を図っている
	■ 地域包括ケアの一員としてモチベーション向上に資する、地域の児童・生徒や住民との交流の実施	
	□ 利用者本位のケア方針など介護保険や法人の理念等を定期的に学ぶ機会の提供	
	□ ケアの好事例や、利用者やその家族からの謝意等の情報を共有する機会の提供	